

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年9月19日

【評価実施概要】

事業所番号	3770101560
法人名	社会福祉法人サマリヤ
事業所名	西春日グループホーム
所在地	香川県高松市西春日町1511-1 (電話) 087-869-1165

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成19年7月25日	評価決定日	平成19年9月19日

【情報提供票より】(平成19年 6月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 13年10月 1日
ユニット数	1ユニット 利用定員数計 9人
職員数	7人 常勤 5人、非常勤 2人、常勤換算 7人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨鉄筋造り 3階建ての3階部分
------	---------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000円	その他の経費(月額)	管理費10,000円+実費
敷金	有(円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 950円		

(4) 利用者の概要(4月 1日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	2名	要介護2	1名		
要介護3	3名	要介護4	1名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 86歳	最低	82歳	最高	89歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	オサカ病院、大西病院、カモン歯科
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

複合施設の2階にあり、他のサービス事業所を活用しながら運営されている。職員はグループホームの理念及び技術に対して、明確なものを持っていることがうかがえる。また、平成18年11月より2か月に1回、地域で運営推進会議を開催し、市の介護保険課や地域包括支援センター等も参加して、地域主体に沿った協議を行っている。現在、「福祉マップ」作りをする等、地域に役に立つよう取り組んでおり、地域密着型サービスの視点からみると、地域で中核的な位置づけを担っているため、今後も継続して、地域のネットワークの構築を図って欲しい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価で浴室改装の課題を提示していたが、浴室は改装できておらず、デイサービスでの入浴となっており、利用者にとって、時間的制約が生じている。入浴等、建物構造面で、複合施設の中のグループホームと考えざるを得ない箇所がみえるため、グループホームの独自性を考えて、今後の取り組みに期待したい。他の改善課題については、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして、具体的な改善に取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして、具体的な改善に取り組んでいる。平成18年11月より、地域で運営推進会議を開催している。利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。また、市の介護保険課や地域包括支援センター等も参加して、地域主体にそった協議をしている。現在「福祉マップ」作りをして、地域に役に立つよう取り組んでいる。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>入居者一人ひとりの受け持ち制を導入しており、月1回、「そら」というグループホーム広報誌と担当者直筆の便りと作成し、小口現金の収支と共に、定期的及び個々にあわせた報告を、家族に送付している。要望や苦情を受付ける箱は、建物の正面玄関に設置しており、直接、家族の顔は見えないので、要望等を提出しやすい状況である。家族の意見・苦情等は、グループホーム内で協議し、可能な限り反映している。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の方たちと関わりを持ち、機会があるごとに話し合ったり、地域との交流を持つために、コミュニティセンターや公民館を利用して活動を行っており、地元の人々との交流することに努めている。施設全体からみて、グループホームを一つの事業所と考えると、玄関をどこにするかが重要となるが、現在、頻りに利用している老人介護支援センター横の総合玄関をグループホームの玄関とすると、グループホームの場所を表示するものがないため、初めての方が訪問しやすいように、ホームまでの動線を考えた表示の設置が望まれる。</p>
重点項目④	

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「馴染みのある人たちと共に、住み慣れたところで、その人らしく安心して生活が送られる」を理念とし、一人ひとりの個別処遇を大切にしている。「共感・受容・傾聴」を取り組み事項として、玄関に掲示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、理念に基づいて取り組んでいる。具体的な取り組みとして、グループホーム会議を月1回開催しており、地域のコミュニケーション活動も実践しようと試みている。	○	平成19年10月から地域のコミュニケーション活動として、独居老人に対して給食サービスを開始し、地域へ出て行く予定なので、今後の取り組みに期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の方たちと関わりを持ち、機会があるごとに話し合いをしている。地域との交流を持つために、コミュニティセンターでの活動を行っており、地元の人々との交流することに努めている。また、公民館を利用し、活動も行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして、具体的な改善に取り組んでいる。前回の浴室改装は改善できておらず、利用者は時間的制約があるが、デイサービスで入浴している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成18年11月より、地域で運営推進会議を開催している。利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について、報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。また、市の介護保険課や地域包括支援センター等も参加して、地域主体に沿った協議をしている。現在「福祉マップ」作りをして、地域に役に立つように取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の介護保険課や地域包括支援センター等と連携して、グループホームのサービスのあり方を検討している。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者一人ひとりの受け持ち制を導入しており、月1回、「そら」というグループホーム広報誌と担当者直筆の便りと作成し、小口現金の収支と共に、定期的及び個々にあわせた報告を、家族に送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望や苦情を受付ける箱は、建物の正面玄関に設置しており、直接、家族の顔は見えないので、要望等を提出しやすい状況であるが、建物全体の総合正面玄関の位置づけが、第三者にとって分かりづらいので、家族等が訪問しやすいように、動線を明確にすれば分かりやすくなると思われる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職や異動がある場合は、速やかに職員を配置している。認知症ケアに対して、専門的な教育・技術を持つ職員配置を可能な限り行っている。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護福祉士等の資格の習得に、グループホームとして協力的である。認知症に対するケアやセンター方式等の勉強会を、法人で月1回、デイサービス共同で月1回、計2回の勉強会を実施している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は、管理者や職員が地域のグループホーム等の同業者と交流する機会を持つために、グループホーム協議会での研修には参加しているが、近くのグループホームとのネットワーク作りは、まだ取り組んでいない。	○	2か月に1回、コミュニティセンターでの活動に対して、近くのグループホームが参加できるように働きかけをする予定であるため、今後の取り組みに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	グループホーム利用する前、在宅サービスを提供されている時からグループホームとして交流をもち、馴染みの関係が保たれるよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と共に過ごせる機会を大切にしている。また、生活の中で利用者から学ぶことが多く、一方的に介護をするのではなく、共に支えあう関係作りを実践している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	こちらからの問いかけに対して、利用者の「はい」、「いいえ」の意思表示や表情を見極めるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者本人の意向や生活状態を、家族や必要な関係者と話し合い、それぞれの意見を反映した介護計画を作成している。個人のケアプランは、初期情報から支援する経過の中でのケアプランの変更と利用者本位を念頭に置いている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状態時及び介護保険更新時には、必ず、サービス担当者会議を開催し、利用者の現状に応じた計画を立てるように努めている。また、利用者個人台帳は、情報の優先順位等を考慮し系統づけた個人台帳である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者一人ひとりの要望に応じて、通院・外出・外泊の支援ができています。また、事業所として、地域との交流会への参加ができています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科、精神科、歯科と、随時に対応できる医療機関を確保し、医師と相談できる関係ができています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	具体的に終末期の過ごし方を話し合っている。昨年、ターミナルの利用者に対するケアを実践しており、医療等の連携も取れている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のプライバシーが損なわれないように、慎重な対応を心がけている。また、排泄に対しては、行動制限せず、トイレに行きそうな時間帯を考え、誘導している。また、広報等においては、利用者一人ひとりの個人情報の利用目的を明確にして、家族等に了承を得ている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	グループホーム内がソファ等で窮屈な空間もあるので、できる限り全体としてゆったりとし、なおかつ、職員は一人ひとりのペースを考えた生活空間を提供している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の方が無理のないように、料理及び食事の用意や、片付け等のできることは一緒に行っている。行事の時は、利用者で料理を作っている。利用者と職員が、楽しく一緒に食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1年以上前より、グループホームの浴槽が壊れており、E型デイサービスの浴室を利用しているので、午後の限られた時間でしか入浴できない。	○	1年以上前より、グループホームの浴槽が壊れているので、利用者立場を理解して、浴室の改装を早期に行うことが望まれる。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	グループホームで可能な限りの個別性を見出すために、一人ひとりの興味、過去の生活歴にあわせて、家事・レクリエーション・クラブ等に参加できるように支援している。公民館の行事等の参加に繋がりたいが、利用者が興味がないのか繋がられていない。	○	地域の公民館行事に、利用者が興味を持てるようアプローチして、参加を促していくことに期待したい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者のその日の希望に応じて、買い物、ドライブ等には、職員が付き添って支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵は使用していないが、利用者の動線上、エレベータは暗証番号での管理であり、3階からエレベータで降りて玄関まで行く場合、併設のショートステイの棟へ行き、エレベータで別な玄関におりる場合があるが、利用者にとっては、玄関に行くまでの障害でもあり、グループホームの玄関がどこかが分かりづらいと思われる。	○	施設全体の建物構造の中で、例えば、利用者の動線を表示し、動線を実際に活用していくようにする等、利用者の動線を考えた空間的な拘束のないケアの取り組みが望まれる。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署が来て、避難訓練を実施している。災害対策におけるマニュアルが作成されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	施設全体として、管理栄養士を配置しており、1日の食事量・食事形態や栄養バランスが確保できるようにしている。また、一人ひとりの1日の水分量が確保できているか記録をつけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間が数か所あり、安心して生活できる工夫が見受けられる。共用空間は窓が少なく、少し暗い感じがあり、ソファ等で狭い感じも見受けられる。しかし、限られた空間の中で、季節の花を飾り、絵を掲示したり、いろいろな工夫がうかがえる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者、家族、職員が話し合い、一人ひとりの居室においては、使い慣れた道具を置き、落ち着けるように工夫している。		